

# 反戦会議通信

No.27  
68.12.26

東京教育大学  
反戦会議  
(連絡先)本館一階

△本日(26日)の全学総決起集会に総結集せよ△

教育大の全ての斗う学友諸君、今や我々斗うもの前に國家权力・文部省からの直接介入が大学当局を通じて闇骨に開始されたりし、学生内部からは、あの陰険で醜惡な日共・民青のセクト主義まる出しの斗争破壊が最も公然とその姿を登場させている。我々はそつした国家权力の直接介入や日共・民青による收拾分裂策動に対し、その全てを粉碎し、筑波移転実力阻止をあくまで貫徹する事をはつきりと24日総決起集会で宣言した。25日、日共・民青は東大に於て教養学部に続き、またもや純暴力主義をもつて医学部代表団を選ぼうとした事に我々は怒りをもつて想い起そうでは有りか。彼らは教育大に於ても文学部を除き他四学部で「統一代表団」なる珍奇なものを作り出し、最も真に斗う部分である文学部に対し、絶えまない敵対的策動を繰り返している。その事は、文斗委事務局に対する建日の「学生大公」開催要求、24日G館における分裂集会工作、それに続く本日の分裂集会で全く明らかである。我々は11日文学生大公、19日文斗委総会、並びに24日総決起集会で庄外的に確認された我々の斗う方針の下、国家权力の直接介入、大学当局の收拾策動を断乎粉碎する斗争宣言を高々と発し、一切の邪マ者達を教育大から放逐し尽くそうではないか。本日の集会にいうものの意味はまさにその一点のみにあるのだ。

△26日、日共・民青の分裂策動、「学生総決起集会」を粉碎せよ△

東大に於て日共・民青はゲバルト部隊を結集するに於り、教養・医学部と、彼らの「民主的」なる仮面をかなぐり捨てて暴力的に「統一代表団」なるものを選出しに至り、それは教育大に於て彼らは、回学部における「学生集会」の為の「統一代表団」選出に至る物質的根柢にして、連日の「学生大公」開催要求をやめ、「校友実現実行委員会」と称して第二自治団への露骨な分裂活動を開始してゐる。その意図は東大の様に「テリチあげ学生大公」・「単獨学生大公開催」であることはあまりに明白である。彼らに於て展開してゐる様に、大学側の紛争解決案の作成過程に於て学内各所へ「教授」「職員」「院生」等の一意見を反映させることを確認せしる場として「学生集会」は位置づけられたり。これこそが彼らの主張する「学生協議会」の内容そのものであり、それはスト收拾以外の何物でもない。大学当局は政府文部省との協議に於て、「学生部が捕わなければ入試は認められない」・「年内に入試実施のメドをつける」・「封鎖」・「休校ある」・「は廃校もあり得る」と相唱されており、年内事態收拾へむけておらゆる懷柔と弾圧を今までより尚一層激しくかけてくることは間違いない。せが日共の民青は「早期解決」を目指して「学生集会」の実現のため、まさに当局と肩を一にして当局の收拾に迎合し、学生に幻想をもたらせ斗争教育大の全ての学友への裏切りを看々と推し進めてゐるのである。日共・民青は、12月あるいは1月2月に於てスト反対派を巻き込む形で「早期解決」・「学生集会」統一代表団選出を叫び、武力をもつてして分裂策動をエスカレートしていくだらうことは、東大の事態からして予想し難いことではない。したがて我々は、文学生大公・文斗委総会等での同一貫して確認されてきた様に、「バリケード堅持」がまさに勝利への保証であることを再度確認し、二つしきの集会の意義もまたそこに集約されるのである。

学友諸君! 我々は本日の集会に於て我々の強固な斗う意志をうち固め、日共・民青の分裂策動たる「集会」を実力をもつてしても粉碎しようではないか。我々反戦会議はその先頭に立ちて斗う決意である。